

A : 「あれ？ それは僕がさっき言っていたことのような気がするけど？」

B : 「あれ，そうだっけ？ まあ，とにかく早く振込みに行ってきたよ。滞納すると，受給額がますます少なくなるよ。」

2006 年度

小論文問題用紙

〔問〕

公的年金制度のあり方を検討する際，どのような論点があるか。二人の対話を前提に，それぞれの論点について考え得る選択肢を示し，それらと比較しながら論ぜよ。

(800 字以上 1200 字以内)

注 意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙は黒インクのボールペンまたは万年筆で記入してください。黒インクのボールペンまたは万年筆を忘れた者は監督に申し出てください。(黒鉛筆・シャープペンシルなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は4ページまでとなっています。試験開始後，ただちにページ数を確認してください。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので，あなたの受験番号の番号であるかどうかを確認してください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し，その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり，破ったり，傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

次のA, B, 二人の対話を前提として下記の問に答えよ。解答は, 解答用紙にしるせ。

A:「国民年金の振込みにいかなくちゃ。」

B:「君は自営業なのか。僕はサラリーマンだから給与からの天引きなんだ。言ってみれば強制徴収だよ。ちまたでは国民年金が破綻するなんて騒がれたりしているけれど, 君はきちんと払っているんだね。」

A:「やっぱり将来が不安だから。年金なしの老後になることを考えるとね。」

B:「でも, その分のお金で民間の個人年金に加入した方がいいという考えもあるんじゃないかな。」

A:「大丈夫なのかな? 民間の個人年金には倒産の可能性があるよね。」

B:「まあ, 倒産するリスクがあるとしても, それは個々人の責任で加入する年金を選べばいいと思うよ。ある人は国民年金に保険料を払う。他の人はリスクを考慮しても将来の受給額が高い可能性がある民間の個人年金に加入する。」

A:「個人の自由な選択に任せてしまうと, 年金制度に加入しない人だって出てくるよ。そういう人たちはどうするの。老後の生活がとても不安定になってしまうよ。そう考えるとやっぱり国が運営する年金制度への強制的な加入は必要なんじゃないかな。それに加えてさらに安心がほしい人は民間の個人年金にも入れればいいわけだし。」

B:「でも, そもそも国民年金の制度が破綻しかかっているんだよ。」

A:「その場合には国が何とかするさ。」

B:「でも, 少子化のために, 我々の世代はどうがんばったって今の高齢者が受け取っている受給額はもらえないことは明らかだからね。その一方で保険料は増えている。負担した分に応じた給付がもらえないような制度に強制的に加入しなくてはいけないというのはどうなんだろう。それならやっぱり民間の個人年金に入った方がいいし, いっそのこと貯金にでもまわしたり, 今の生活のために使った方がいいという人がいても不思議じゃない。」

A:「国民年金には民間の個人年金では担えない意義があると思うし, だからこそ国民全体で支えていかななくてはいけないものだと思うよ。」

B:「それは僕にはよくわからないな。いずれにしても, 今の制度には不満をどうしても感じてしまうよ。例えば, 保険料は僕の場合は給与から天引きされるけど, 君のようにそうじゃない人もいる。君は納めているからいいけど, 世の中は君のような人ばかり

りじゃないよ。その結果, 破綻を回避するためには保険料を上げないといけなくなる。そうすると結局, 僕達のようなまじめに払っている者の負担が大きくなるわけで。」

A:「国民年金の原資を全て税金でまかなうことを考えてもいいのかもしれないね。」

B:「増税には反対だけど, 仕方がないのかもしれない。消費税という形で徴収すれば, 全ての国民が負担することになるね。」

A:「それだと多く消費した人が多く負担することになるけど, それでいいのかな。もらえる受給額は変わらないわけだよ。」

B:「そういう問題も確かにあるね。でも, この方法なら保険料の未納に頭を悩ませなくて済むよ。」

A:「あと, 失業者のように収入がない人や, 年金を受け取っている高齢者からも徴収することになるよね。」

B:「それが問題だというのなら, 所得税という方法もあるかなあ。でもね, 年金制度の破綻が騒がれているような状況では, そもそも仕方がないよ。それに, そうでもしなければ, 年金の受給額の減額もやむを得ないような事態になるよ。」

A:「いや, 今の高齢者は老後に相応の年金が受け取れることを期待して若い頃に保険料を支払ってきたわけだから, その期待を裏切るようなことをしてはいけないよ。」

B:「でも, 支払い始めてから年金を受け取るまでには何十年もの期間があるわけで, そのあいだに社会の状況が変わらないなんてことはあり得ないよ。そうだとすると, 社会の変化に応じて年金の受給額が変動するような仕組みを作ることが, そもそも年金制度にとって必要なことじゃないかな。実際, 不況や少子化といった変化が起きたからこそ, 年金制度の改革がいま論じられているわけだし。」

A:「状況によっては, ごくわずかしかなんか年金を受け取れなくなっても仕方がないってこと? そうだとしたらそもそも何のための年金制度なんだろう。そういう仕組みにすると逆に, 多くの人が保険料を支払う気がなくなるような気がするな。」

B:「おいおい, 年金は国民全体で支えるものじゃなかったのかい。」

A:「いや, やっぱりそれなら最初から民間の個人年金に加入した方がいいような気がしてきたよ。」

B:「たとえわずかしかなんか受け取れないとしても, それで生活が少しでも安定するなら意味があるんじゃないかな。その上でもし, 余裕があれば民間の個人年金にも加入すればいいんじゃないか。それに, 民間の個人年金は倒産のおそれがあるよ。」